



## 世界最大「アルマ望遠鏡」 台湾は8研究で使用

2011/10/26 11:03:39



(台北 26日 中央社) 台湾最高の学術研究機関、中央研究院(中研院)の天文所は25日、建設が進められてきた世界最大の電波望遠鏡「アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計」(アルマ望遠鏡)が科学観測に開放されたことを受け、台湾は8件の研究で観測使用することになったと発表した。

アルマ望遠鏡は、欧州・北米や東アジアの国際協力のもとでチリのアタカマ高地に建設が進められている電

波望遠鏡で、台湾の科学者が「台湾最南端の墾丁から台北の超高層ビル“台北101”の上にある1元(台湾ドル)硬貨がはっきり見える」とたとえるほどの高感度という。

そしてアルマ望遠鏡での科学観測を募集したところ、世界の天文学者から約900件の観測研究が申請され、実際に実行される112件が選出された。そのうち台湾からは、中研院天文所が提出したガンマ線バーストに関する研究や、ジェット噴流の回転速度が恒星の形成に及ぼす影響の研究など8件が選出された。

中研院天文所の賀曾樸所長は「アルマ国際計画に参加できることは、台湾の電波天文学の発展にとって最高の出来事」と評価した。